

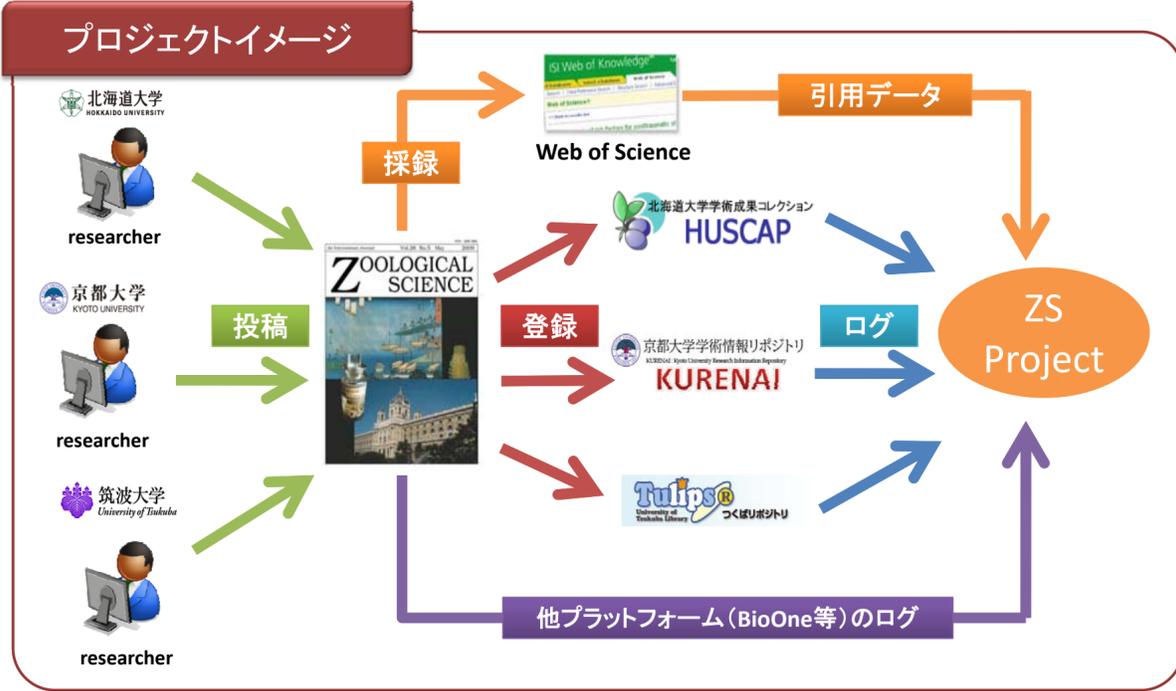
ZS Project

機関リポジトリへの登録が学術文献流通に対して及ぼす効果についての定量的解析のための文献蓄積及びデータ整理(領域2)

主担当機関:北海道大学;連携機関:京都大学、筑波大学、千葉大学、金沢大学、大阪大学、広島大学

ZSプロジェクトとは

機関リポジトリによるオープン・アクセス(OA)の効果を検証する。



- ◆ OAの被引用数増効果に関する研究は多いが、分野別リポジトリ(arXiv等)だったり、OAであれば対象を限定しない研究だったり、**機関リポジトリに限定した研究はない。**
- ◆ 「機関リポジトリに登録することによる効果」を検証する必要があるのでは。
- ◆ 機関リポジトリに登録することで新たな引用を引き起こすか？

1. 日本動物学会の協力のもと、日本動物学会発行の国際ジャーナルである“Zoological Science”誌に掲載されている論文のうち、北海道大学、京都大学の所属研究者の発表論文をそれぞれの**機関リポジトリに搭載**する。
2. 機関リポジトリにおけるアクセスログ及びBioOneのアクセスログを分析(**論文がどれだけ読まれたかの調査**)
現在このあたり
3. Web of Science上の被引用カウントの変化を整理し、上記の利用記録と照合しつつ引用状況の変化の特性を抽出する。

最近の分析結果より

やっぱりCiNii連携とGoogle Site Mapは大切!

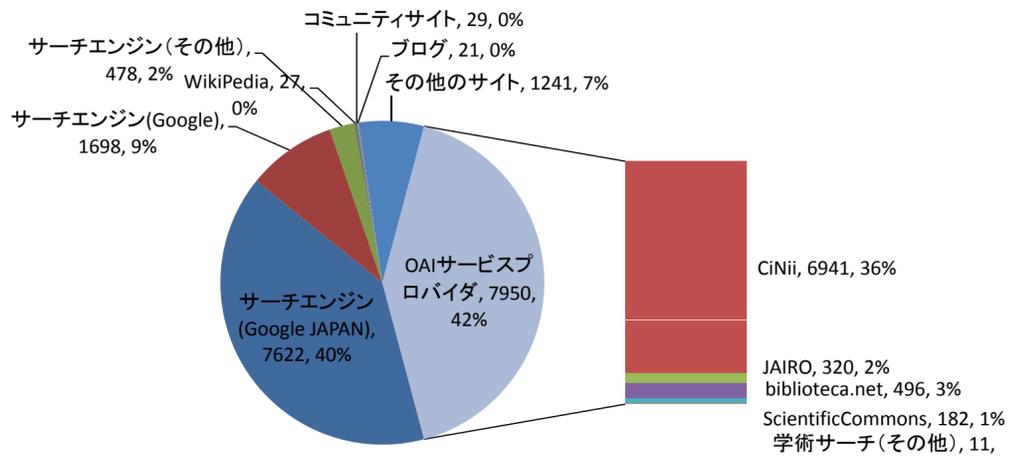
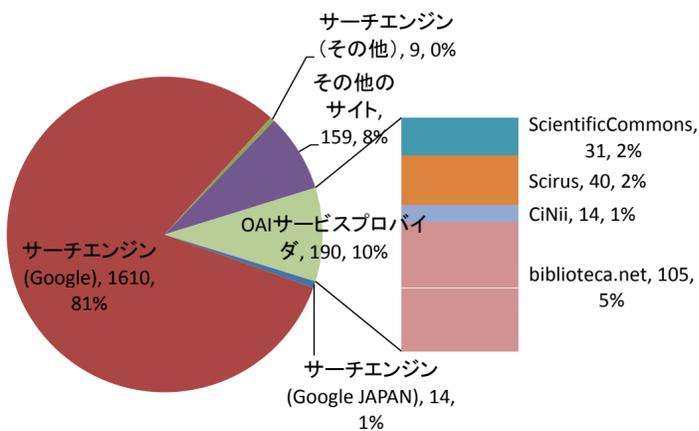
アクセス経路分析

<分析を行った理由>

PDFのダウンロードログだけでは、メタデータページ経由からのアクセスについて、それらは、どこからメタデータページに到達したか不明である。(例えばCiNiiからは基本メタデータページにアクセスされるためCiNiiからのアクセスであることがわからない。)

<分析方法>

メタデータページへのアクセスから300秒(5分)以内にPDFをダウンロードしたものを抽出(同一人物かどうかはIPアドレスで判断)し分析。(リファラなし、ホスト名不明は除外)



<雑誌論文・英語・教育機関から・JPドメイン以外からのアクセスに限定>

- ほとんどが**Google**からのアクセスである!
- OAIサービスプロバイダ経由も1割程度ある。

※HUSCAPの2008/1-2008/9のログで分析

<紀要・英語・教育機関から・JPドメインからのアクセスに限定>

- 検索エンジンが多いが、**CiNii**経由も**Google Japan**と同程度ある。
- 可視性向上のためにはCiNiiとの連携は必須である。

OCRは本当に有効か? 分析

やっぱりOCRは大切!

<分析を行った理由>

本プロジェクトより「OCR化は可視性を高めるためには有効!」との報告を再三行っているが、これまでは別々のアイテムに対して元々OCR化されているPDFと、画像PDFとを比較したものである。これを検証するために画像PDFであったものに対してOCR化を行い、OCR化の前と後のダウンロード数を比較した。

<分析方法>

HUSCAPの画像PDFに対して2009年9月に一括してOCR処理を行った。これらのうち、2008年9月までに登録されたアイテム(21,019アイテム)を対象とし、2008/10~2009/3までのダウンロード回数と2009/10~2010/3までのダウンロード回数を比較した。

- 検索エンジン経由のダウンロード回数では、画像PDFだった時と比べダウンロード回数が**2.3倍**になった!
- 増加分のうち検索エンジン経由以外のほとんどはCiNiiからのアクセスであり、CiNii連携を始めたことによる影響である。よって、増加分はほとんどOCR化による影響ととらえることができる。

	全て	検索エンジン経由
2008.10-2009.3	70,440	24,564
2009.10-2010.3	116,910	57,593
差分(増加分)	46,470	33,029

ちなみにメタデータページにアクセス後PDFをダウンロードした率

	紀要<日本語>	
	教育機関以外	教育機関
検索エンジン(Google JAPAN)	22%	32%
検索エンジン(その他)	15%	22%
WikiPedia	41%	69%
ブログ	41%	54%
CiNii	76%	74%
合計平均	36%	56%

- 検索エンジン経由よりもCiNiiなどのOAIサービスプロバイダ経由の方が圧倒的にダウンロード率が高い